

「地域に根ざした看護を学び、健康社会の未来を拓く、人間看護学部」

人間看護学部の今後 10 年の将来構想

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」を将来目標に、2020 年の本学の姿を次の 3 点に集約している。

1. 教育を重視し、学生の満足度が高い大学
2. 社会のグローバル化や時代の変化をとらえた大学
3. 地域や産業界と連携し、創造的な研究に取り組む大学

人間看護学部は、上記目標に向けて、以下の取り組みを行う。

(1) 教育

看護は実践の科学であるため、教育目標を明確にした上で達成状況を確認し、最終的に国が指針に示す到達度を達成できるようきめ細かい教育を行う。また、社会や時代の変化に柔軟に対応していけるように、広い視野を持ち、根拠に基づいた理論的思考ができ、さまざまなことに挑戦する人材が育つ環境を整える。

医療の高度化・専門化は止まるところを知らず、看護分野にも高度専門職業人の養成が求められている。これらの要請に応えるため、大学院教育を充実させる。具体的には、高い看護実践能力を持つ専門看護師を養成するコースを修士課程に開設し充実させる。また、助産学分野も同課程に増設し、自律できる助産師を養成する。博士後期課程は、平成 26 年度開設を目指す。

(2) 研究

地域に根ざした看護研究を積極的に展開する。地域交流看護実践研究センターの機能を強化し、本センターを核として、県下の病院・保健施設と共同研究を展開する。また、総合大学の強みを生かして他学部と、さらに学外の研究機関とも積極的に共同研究を行う。

研究費の獲得はすべての研究活動の基盤であることから、競争的外部資金の安定的・継続的な獲得を可能にする方策を講じる。

看護学を科学的に追究し、その成果を発信していくことにより、看護学の更なる発展に寄与する。

(3) 社会貢献

県内の保健・医療・福祉・教育施設に勤務する看護職者に、スキルアップ研修の機会を提供することにより、県全体の看護レベル向上を担う。さらに滋賀県看護協会と共同で、卒後研修や研究者養成等の事業を実施する。

地域交流看護実践研究センター内に「健康センター（仮称）」を開設し地域住民の健康相談に応じるなど、広く地域住民の健康の維持・増進に貢献することにより地域社会を支え

る。

(4) 国際化

看護師の活動の場は、国内に留まらない。そこで、外国語によるコミュニケーション能力、異文化理解を深め、国際看護カリキュラムを充実させるなど教育環境を整備することにより、国際的な視野を持つ人材を育成する。また、博士後期課程における研究・教育を見据えて、国際誌への論文投稿を推進する。